苫小牧市観光振興ビジョン

【第２期】

TOMA KOMAI

2025（令和7）年6月

計画期間 ： 2025（令和7）年度～2029（令和11）年度

目　次

第1章　総論

1　改定の趣旨と目的 p01

2　ビジョンの位置付け p01

3　ビジョンの計画期間 p02

第2章　苫小牧市における観光の現況と課題

1　国の動向 p03

2　北海道の動向 p04

(1)　観光入込客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5

(2)　観光客の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・p6

3　苫小牧市の現状と課題 p07

(1)　観光入込客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・p7

(2)　観光入込宿泊客数・・・・・・・・・・・・・・・・p8

(3)　調査別観光入込客数・・・・・・・・・・・・・・・p9

(4)　傾向と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p11

第3章　基本方針と評価指標

1　基本方針 p12

(1)　地域の魅力の有効活用・・・・・・・・・・・・・・p12

(2)　観光推進体制の強化・・・・・・・・・・・・・・・p12

(3)　新たな魅力づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・p12

目　次

2　評価指標 p13

①　苫小牧市観光入込客数・・・・・・・・・・p13

②　各種イベント観光客動員数　・・・・・・・・p14

③　苫小牧市観光入込宿泊客数・・・・・・・・p14

第4章　主要施策

1　構　　成 p15

2　主要施策 p16

(1)　地域資源の魅力向上・・・・・・・・・・・p16

(2)　各種のイベント開催　・・・・・・・・・・p19

(3)　情報発信の強化・・・・・・・・・・・・・p21

(4)　MICE誘致の推進　・・・・・・・・・・・・p21

(5)　サステナブル・ツーリズムの推進　・・・・p22

(6)　広域連携の推進・・・・・・・・・・・・・p22

(7)　地域特性を生かした観光の魅力づくり　・・p23

第5章　推進体制と計画管理

1　市民の役割 p26

2　観光事業者の役割 p26

3　観光協会の役割 p26

4　行政の役割 p26

資料　ビジット苫小牧観光会議

1　ビジット苫小牧観光会議設置要綱 p27

2　ビジット苫小牧観光会議委員構成 p28

第1章　総　論

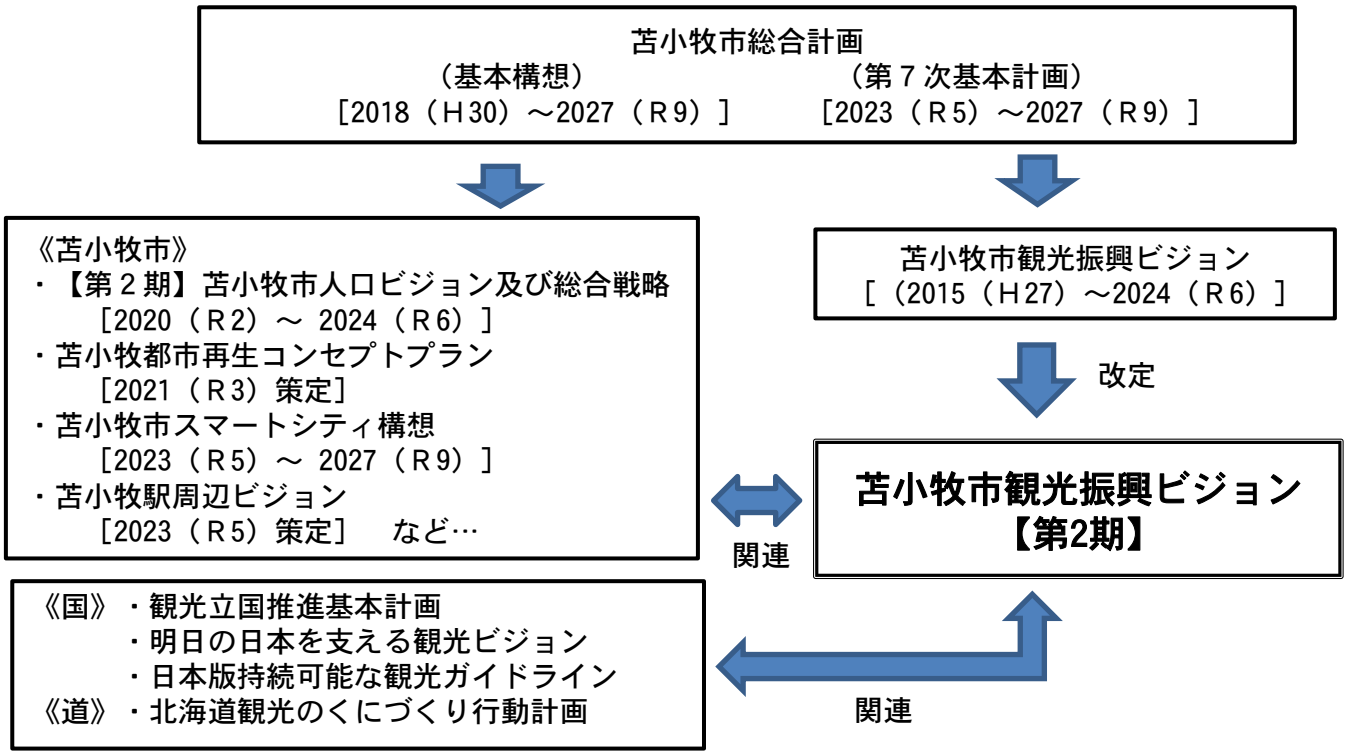
1　改定の趣旨と目的

本市は、苫小牧市総合計画（基本構想・第５次基本計画）に基づき、「活力ある産業と賑わいのまち」の実現に向けて、２０１６（平成２８）年２月に「苫小牧市観光振興ビジョン」（以下「第１期ビジョン」という。）を策定しました。その間、第１期ビジョンに基づき、さまざまな施策を展開し、交流人口の増加と地域経済の活性化を図ってきましたが、２０２０（令和２）年に新型コロナウイルスが蔓延し、新しい生活様式への転換や国際的な往来制限などにより観光客は大きく減少しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて旅行者の目的や行動、形態などが変化し、転換期を迎えた中、第１期ビジョンの方針を継続しつつ、これまで以上に「観光客から選ばれるまち」となるためには行政だけではなく、市民や事業者、観光協会などの関係団体との連携が不可欠であり、国や北海道の観光振興施策の動向を踏まえ、本市が取り組むべき方向性を明確にするため、「苫小牧市観光振興ビジョン【第２期】」（以下「本ビジョン」という。）を策定することで、長期的な視点でまちぐるみの観光振興に取り組み、交流人口の増加による地域経済の活性化を目指します。

2　ビジョンの位置付け

本ビジョンは、苫小牧市総合計画（基本構想：第７次基本計画）に基づき、「明日を拓く力みなぎる産業のまち」の実現に向けて、本市の観光振興の進むべき方向性とあり方を示すものです。また、国や北海道、本市の関連計画との整合性も図りながら推進します。

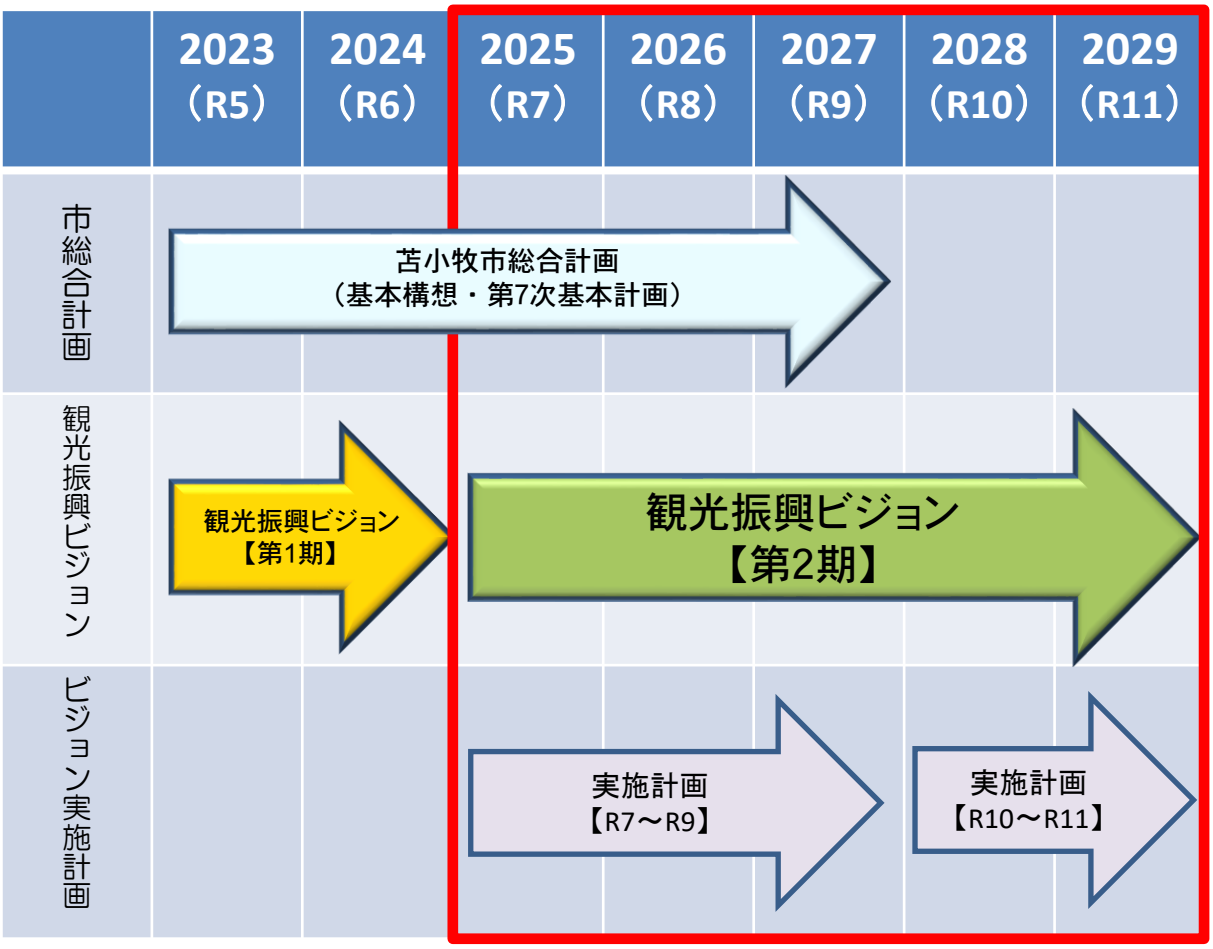


３ ビジョンの計画期間

本ビジョンは２０２５（令和７）年度から２０２９（令和１１）年度までの５年間を計画期間とします。

なお、計画期間を２～３か年とする実施計画を立案し事業の推進を図ります。

また、観光を取り巻く社会情勢の変化に応じて適宜見直しを図ることとします。



第2章　苫小牧市における観光の現況と課題

1　国の動向

少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を視野に、観光がその使命を果たすことができる観光立国の実現を国家戦略として位置付けた「観光基本法」を前面改正した「観光立国推進基本法」が２００６（平成１８）年１２月に成立し、２００７（平成１９）年１月より施行されています。

また、２０２３（令和５）年度には観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。

新たな観光立国推進基本法においては、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する、「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の３つをキーワードに持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の３つの戦略に取り組むこととしています。

持続可能な形での観光立国の復活に向けて、政府一丸、官民一体となって着実に実施しております。

観光立国推進基本計画（国）における基本的な方針（抜粋）

1　持続可能な観光地域づくり戦略
・観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する
・観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる
・地域住民の理解も得ながら、地域の自然、文化の保全と観光を両立させる

2　インバウンド回復戦略
・消費額５兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する
・消費額拡大・地方誘客促進を重視する
・アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

3　国内交流拡大戦略
・国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
・旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる新たな交流需要の開拓を図る

2 北海道の動向

北海道では、観光にかかわる産業を北海道経済のリーディング産業として位置付け、道民の総意として観光振興に取り組むため、２００１（平成１３）年１０月１９日に公布・施行した「北海道観光のくにづくり条例」に基づき、観光にかかわるすべての関係者が連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための、「北海道観光のくにづくり行動計画」を策定しています。

２０２１（令和３）年度からの第５期行動計画では旅行形態の変化や旅行者ニーズの多様化に加え、本格的な人口減少社会到来による国内旅行市場の縮小の懸念や、海外からの観光需要を積極的に獲得していく必要があるとの考えのもと「観光で稼ぐ」をキーワードに、これまで旺盛なインバウンド需要を取り込みながら観光振興に取り組んできました。

コロナ禍を経て変化した旅行者ニーズなども踏まえながら、アジアはもとより欧米などをターゲットとした戦略的なプロモーションなどを通じて、新たなインバウンドの取り組みを進めていくほか、本道の強みを生かしたケア・ツーリズムの推進、アドベンチャートラベルに代表される観光の高付加価値化に向けた取組などを重点的に推進していくことにより、「観光立国北海道」の再構築に向けた取組を進めていきます。

北海道観光のくにづくり行動計画における施策展開方針

1.クリーン×セーフティ北海道
「環境と共生する観光を推進し、積極的な情報発信を行うことにより「『安全・安心』で選ばれる観光地づくり」を目指していきます。

2.量×質の追求
道内観光客からも愛される観光地づくりや、自然環境、食などの観光資源のブランド力強化により新規誘客・リピーターの獲得やサービスの充実による質の向上、先端技術の導入による低コスト化を行うことにより、観光客のさまざまなニーズに対応できる施策を展開し、「満足度向上と連動した消費単価の向上」を目指します。

3.旅行者比率のリバランス
道内旅行需要の見直しと道外観光客の旅行需要を喚起しつつ、地域偏在や季節偏在などの課題解決につながる取組を進めます。また、訪日外国人来道者については渡航制限解除等を見据えた海外需要の獲得を目指し、欧米や東南アジアなど東アジア以外から観光客を増加させるなど「感染症の状況に応じた誘客対象の最適化」を目指していきます。

4.新しい旅行スタイルの推進
本道の豊かで優れた自然環境等を活かしたワーケーションの推進や、「ATWS北海道/日本」を契機に本道の自然・文化等の特性を活かしたアドベンチャートラベルの造成・発信のほか、新たなインバウンドをはじめとする道外からの旅行客の取込方策の検討を進めるなど、長期滞在が促進され、繁忙期、閑散期の差の解消ができ、観光総消費額を増加させる「新たな北海道観光価値の創出」を目指していきます。

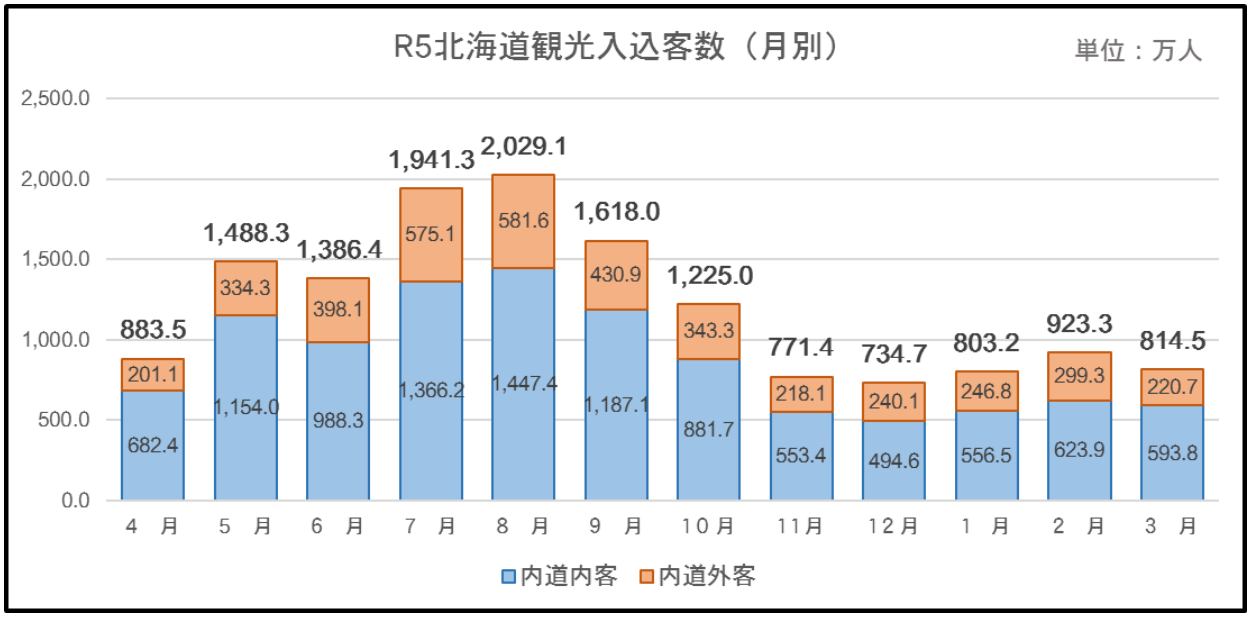
5.観光インフラの強靭化
広域観光の拠点としての道内空港等の利活用や観光産業を支える人材の確保や育成、災害時等に観光客の安全・安心に資する基盤の強化などで地域における観光インフラの充実を目指していきます。

6.推進体制の強化
施策を推進する体制強化のため、観光関係団体との連携や安定的な財源の確保に向けた検討を進めていきます。

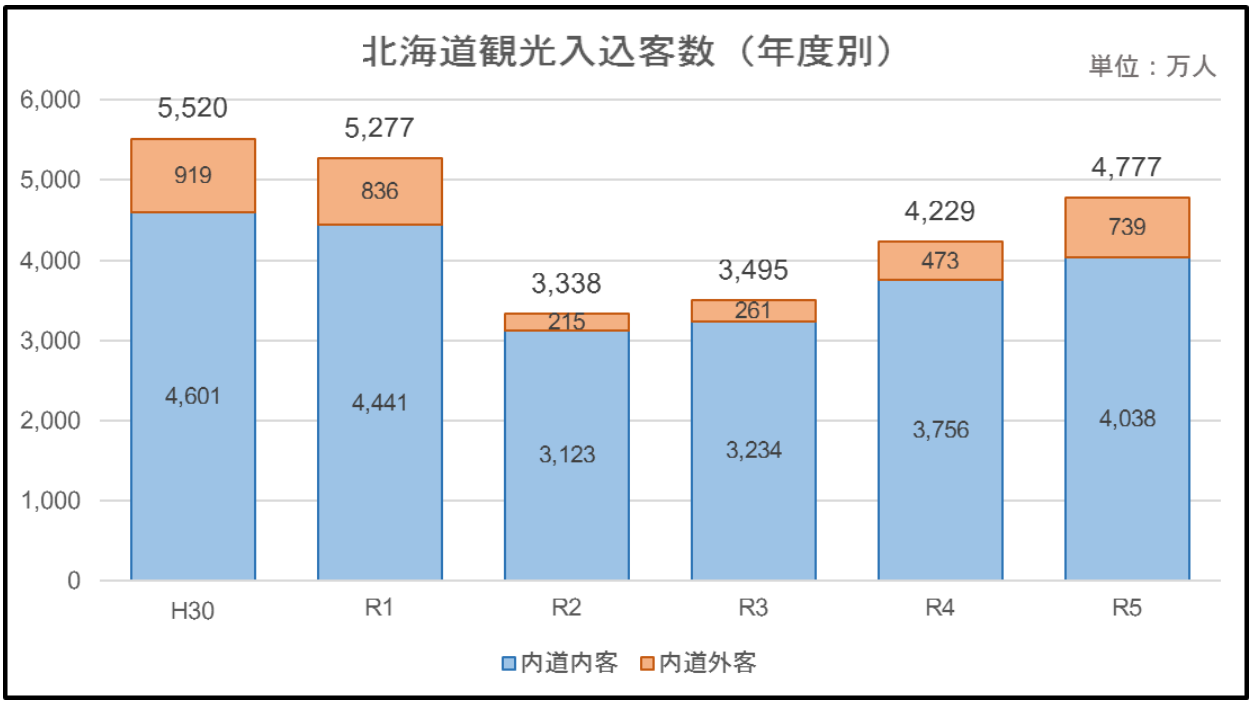
(1) 観光入込客数

北海道の観光入込客（延べ人数）は、繁忙期（５月～１０月）と閑散期（１１月～４月）の季節格差が大きいのが特徴です。２０２３（令和５）年度の北海道観光入込客数調査によると、８月の２，０２９万１千人と比べて最も少なかった１２月には６０％以上減少し７３４万７千人となっています。

観光入込客数としては、２０２０（令和２）年に世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響により道内の観光産業に大きなダメージを与えたが、影響前と同水準に近づいてきています。

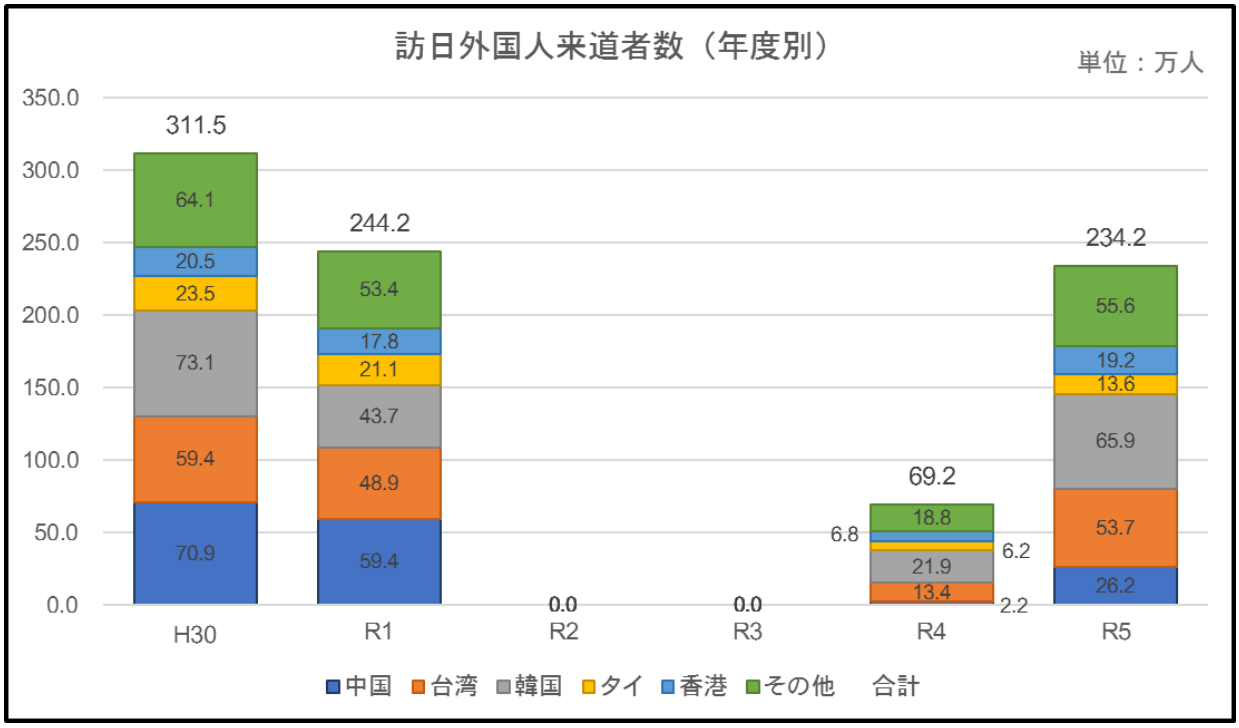


出典：令和　5　年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局



出典：北海道観光入込客数（実人数）の推移、北海道経済部観光局

訪日外国人来道者数(実人数)は、はじめて１００万人を越えた２０１３（平成２５）年度の１１５万３千人からさらに増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、２０２２（令和４）年度は６９万２千人まで減少しましたが、２０２３（令和５）年度は２３４万２千人と回復傾向にあります。２０２３（令和５）年度の内訳としては、韓国が６５万９千人と最も多く、次いで台湾の５３万７千人、中国の２６万２千人、香港の１９万２千人、タイの１３万６千人と続き、アジア圏からの来道者が、全体の８割近くを占めています。



出典:訪日外国人来道者数(実人数)の推移、北海道経済部観光局

(2) 観光客の特徴

北海道経済部観光局が２０２３（令和５）年１２月にまとめた「北海道観光の現況２０２３」によると、北海道 を訪れる観光客の特徴として、次の傾向が示されています。

① 道央圏域への宿泊が多い
② 道外客宿泊数は３泊以上の長期滞在客が増加している
③ 来道者は東京・大阪から航空機利用者が約８割
④ 観光消費額単価は増加している
⑤ 観光客の満足度で最も高いのは「景観」
⑥ 道外客のリピート意向は９９％と非常に高い
⑦ 北海道への修学旅行の学校数・人数ともに増加している

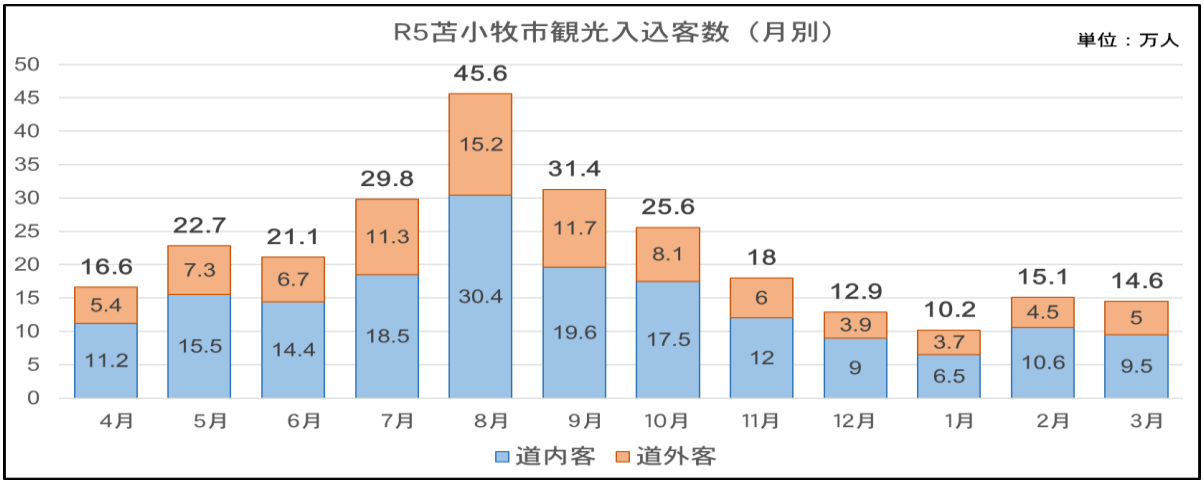
３　苫小牧市の現状と課題

(1) 観光入込客数

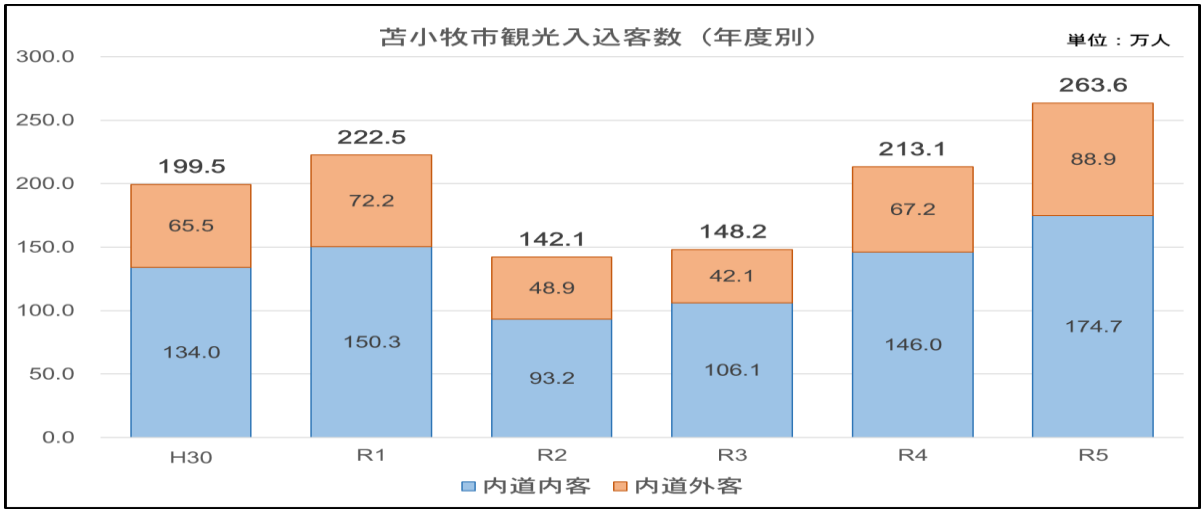
本市の観光入込客の多くは道内客で、季節格差が極端に大きいのが特徴です。

２０２３（令和５）年度調査では、最も少なかった１月の１０万２千人と、最も多かった８月の４５万６千人を比較すると、およそ４．５倍の格差があります。

また、観光入込客に占める宿泊客の割合としては、北海道の１６．９％に対し、本市は４．６％と低くなっています。



出典：令和５年度観光入込客数調査、苫小牧市



出典：令和５年度観光入込客数調査、苫小牧市

【2023（令和5）年度 北海道と苫小牧市の観光入込客数の比較】

	日帰客	宿泊客	合計
北海道 （構成割合）	12,149.1万人 （83.1%）	2,469.5万人 （16.9%）	14,618.6万人
苫小牧市 （構成割合）	251.5万人 （95.4%）	12.1万人 （4.6%）	263.6万人

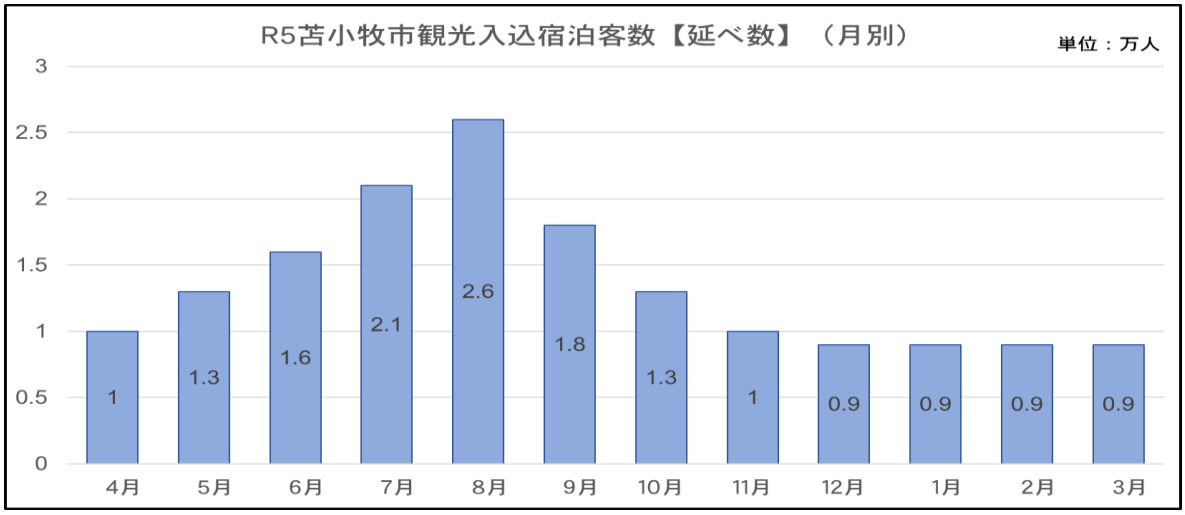
出典：令和５年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

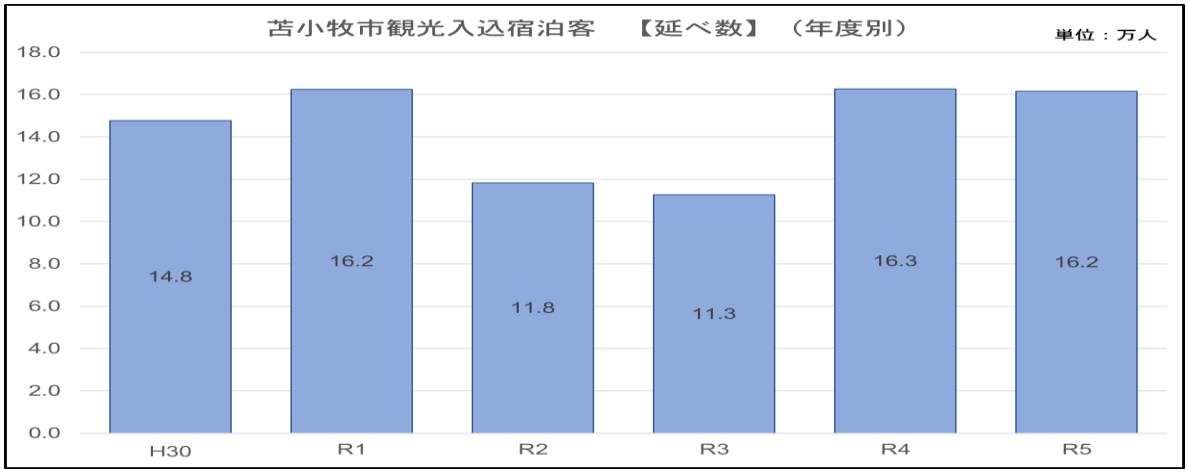
(2) 観光入込宿泊客数

宿泊客の月別推移では、最も多い８月には延べ２万６千人が宿泊していますが、１２月には約３分の1の９千人まで減少するため、宿泊施設の客室稼働率の変動も激しいものと推測されます。

２０２３（令和５）年度の宿泊客延数を見ると、人口が同規模の釧路市と帯広市は、いずれも１００万人･泊を越えている一方、本市は１６万人･泊と極端に少なくなっています。

これらのことから、本市は日帰客が多い、典型的な通過型の観光地であると言えます。





出典：令和５年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

【宿泊客延べ数】

順位	市町村名	宿泊客延数		
		R4	R5	対R元年度比
1	札幌市	1,299万人泊	1528万人泊	117.7%
2	函館市	353万人泊	393万人泊	111.3%
3	釧路市	125万人泊	126万人泊	100.9%
4	小樽市	104万人泊	113万人泊	127.8%
5	帯広市	88万人泊	108万人泊	104.0%
25	**苫小牧市**	**16万人泊**	**16万人泊**	**99.3%**

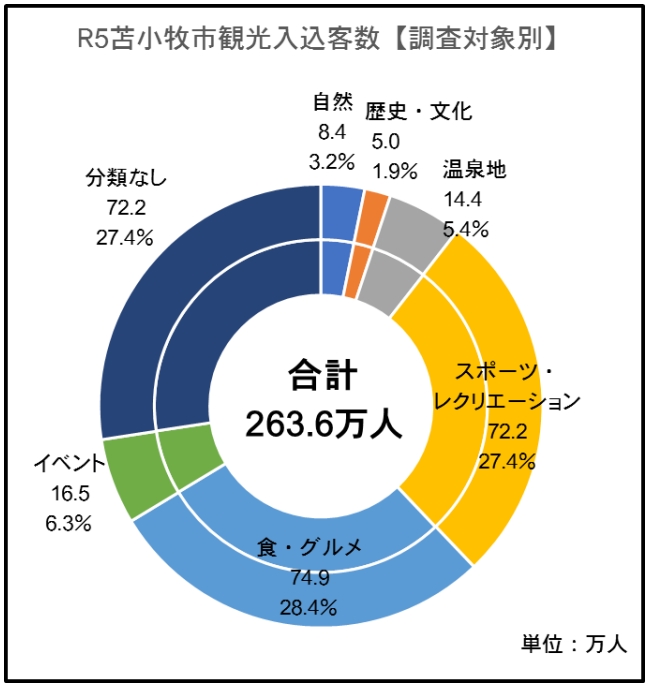
出典：令和４年度及び令和5年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

(3) 調査別観光入込客数

２０２３（令和５）年度の観光入込客を調査対象別に分類すると、本市では「食・グルメ」を目的とする観光入込客が最も多く、全体の２８．４３％を占めています。

調査対象地としては、道の駅ウトナイ湖（６２．２万人)とノーザンホースパーク(２３．６万 人)、海の駅ぷらっとみなと市場(６５．１万人）の集客力が高くなっています。

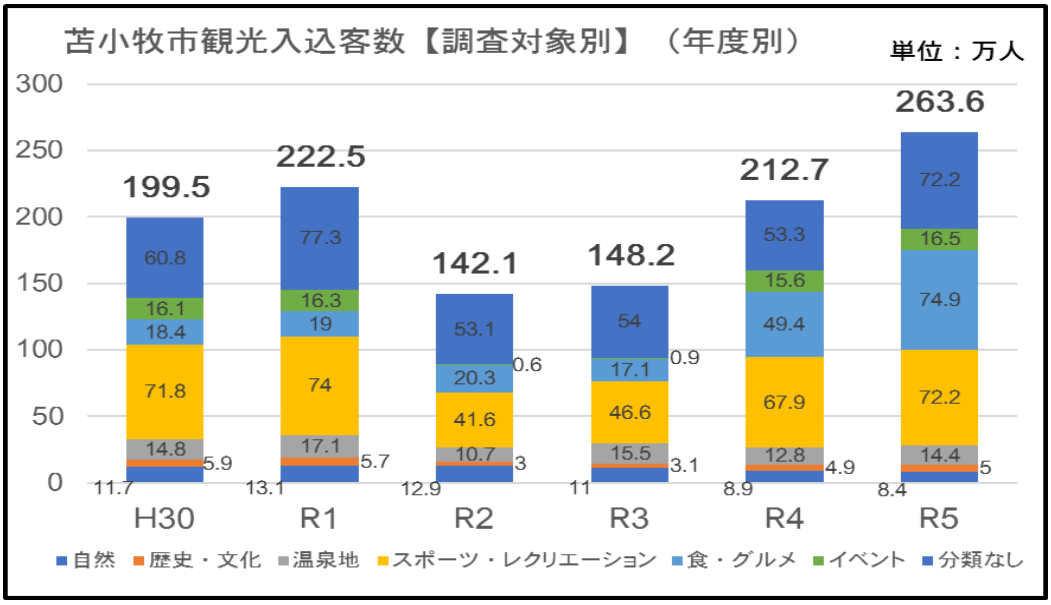
また、市内にはゴルフ場が１０か所あり、新千歳空港に近く、高速道路の交通アクセスにも優れているため、道内外からのゴルフ目的の観光入込客は２３．８万人と、全体の９．０％を占めています。



出典:令和５年度観光入込客数調査、苫小牧市

【ノーザンホースパーク】

【海の駅ぷらっとみなと市場】



出典:令和５年度観光入込客数調査、苫小牧市

【R5調査対象別観光入込客数】

分類	調査対象地	入込客数	構成割合
自然		8.4万人	3.2%
	樽前山	2.4万人	0.9%
	オートリゾート苫小牧アルテン	0.9万人	0.3%
	野生鳥獣保護センター	1.7万人	0.6%
	その他	3.4万人	1.3%
歴史・文化		5.0万人	1.9%
	苫小牧市科学センター	2.8万人	1.1%
	その他	2.2万人	0.8%
温泉地		14.4万人	5.5%
	ゆのみの湯	9.0万人	3.4%
	その他	5.4万人	2.0%
スポーツ・レクリエーション		72.2万人	27.4%
	ゴルフ場	23.8万人	9.0%
	ノーザンホースパーク	**23.6万人**	**9.0%**
	スケート場	8.7万人	3.3%
	総合体育館	6.4万人	2.4%
	その他	9.7万人	3.7%
食・グルメ		**74.9万人**	**28.4%**
	海の駅ぷらっとみなと市場	**65.1万人**	**24.7%**
	その他	9.8万人	3.7%
イベント		16.5万人	6.3%
	とまこまい港まつり	6.4万人	2.4%
	その他	10.1万人	3.8%
分類なし		72.2万人	27.4%
	道の駅ウトナイ湖	**62.2万人**	**23.6%**
	その他	10.0万人	3.8%
合計		263.6万人	

出典：令和5年度観光入込客数調査、苫小牧市

【道の駅ウトナイ湖】

【ゴルフ】

（4）傾向と課題

苫小牧市はウトナイ湖や樽前山など自然に囲まれており、さらに、空港や港も近いことから観光客が訪れやすい街ではあるが、圧倒的な集客力を持つ観光資源が乏しく、宿泊客も少ないことから「通過型都市」となっております。

観光入込客数を見ると、第1期ビジョン策定時に比べ全体的に増加しており、特にぷらっとみなと市場の観光入込客数が大幅に増加し「食」への認知度が高まっている反面、自然やスポーツ・レクリエーション施設への観光入込客数がそれほど増加しておらず、冬期間（12～3月）の割合が低い状況となっております。

今ある観光資源を有効活用しさらなる魅力向上を図り、本市の魅力発信を強化するとともに、イベントの周知やイベントツアーの造成などにより宿泊者増を図っていく必要があると考えます。

苫小牧市観光のSWOT分析

	強み（Strengths）	弱み（Weaknesses）
内部環境	・空港と港が近く、市内に6か所のインターチェンジがあり観光客が訪れやすい立地にある ・海が近いため、新鮮な海産物がある ・自然環境に恵まれている ・・・「ウトナイ湖」「樽前山」など ・ゴルフ場が多い ・差別化できる観光資源がある・・・産業観光	・圧倒的な集客力を持つ観光資源がない ・自然豊かな観光資源があるが、本市としての認知度が低い ・冬季における観光入込客数が夏季に比べると格段に少ない
	今後の機会（Opportunities）	今後の脅威（Threats）
外部環境	・駅前再開発における駅前の賑わい創出 ・広域観光の推進 ・・・ウポポイ、登別温泉など ・インバウンド需要	・人口減少、少子高齢化による観光市場の変化 ・物価高騰などによる観光需要の変化 ・旅行形態の変化

第3章　基本方針と評価指標

1　基本方針

（1）地域の魅力の有効活用

本市には、樽前山麓の広大な森林をはじめとする豊かな自然、平成１２年以来連続漁獲量日本一の「ホッキ貝」に代表される美味しい海産物、初心者にも登りやすいと人気な「樽前山」、キャンプ場と温浴施設が併設している「オートリゾート苫小牧アルテン」など、様々な観光資源が点在します。

これらの観光資源の魅力向上を図り有効活用することで、魅力ある観光地づくりを進めてまいります。

【春の樽前山】

（2）観光推進体制の強化

本市を訪れる観光客は様々な人やサービスに接した上で、まちへの印象や思いを持ち帰るため、行政だけが観光振興に取り組んだとしても、本市のファンやリピーターが増えることはありません。

そのため、観光客と接するすべてのものが一体となり、まちぐるみで観光振興を促進します。

【オートリゾート苫小牧アルテン】

（3）新たな魅力づくり

アニメツーリズム推進事業として本市とゆかりのあるアニメ作品等とコラボし、道の駅や市内観光施設などにパネルを設置したり観光スポットを巡るスタンプラリーを行うことで、魅力づくりを実施しています。

サブカルチャーに限らず、新しい動きが新たな地域の魅力につながるよう、関係者と一体となり様々な仕掛けを展開していきます。

© Cygames, Inc.

【「ウマ娘 プリティーダービー」とのコラボ】

２　評価指標

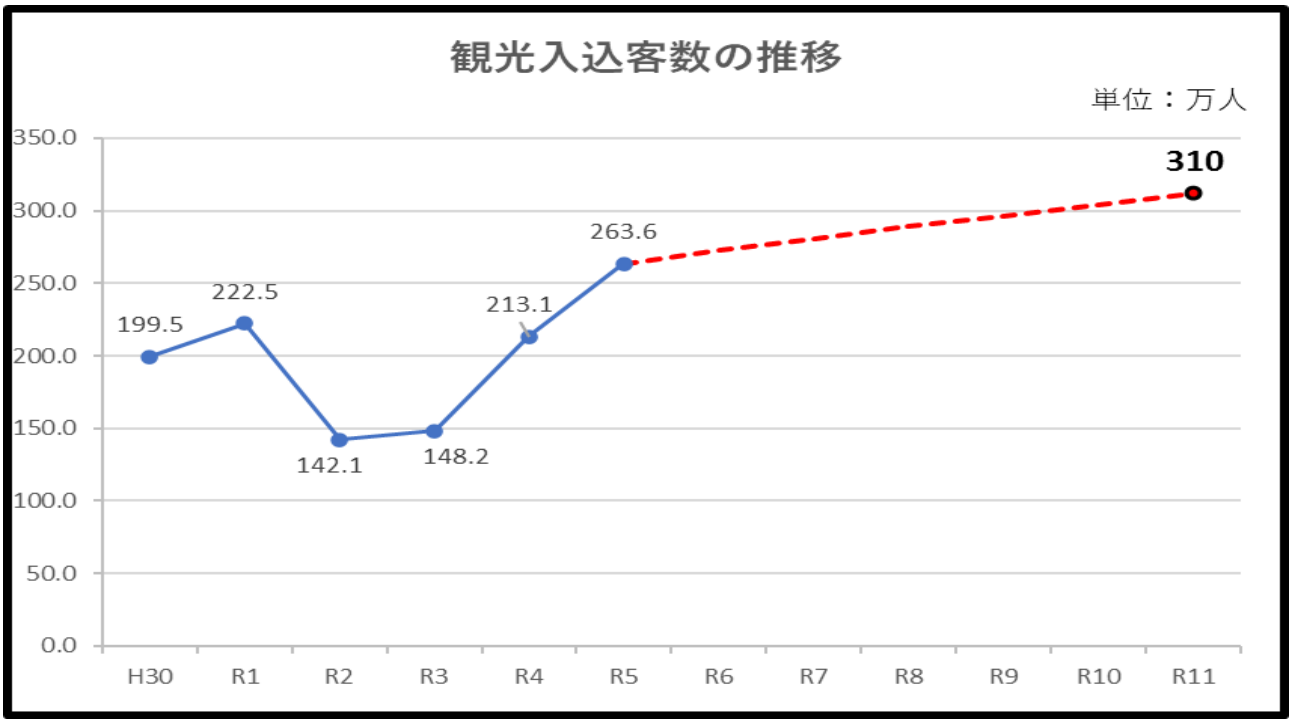
基本方針に基づき、観光の質の向上を目指し以下の３つの指標を設定します。

観光の質の向上とは、観光客、観光事業者、市民・地域にとって、質や満足度の高い観光振興を実現していくことです。

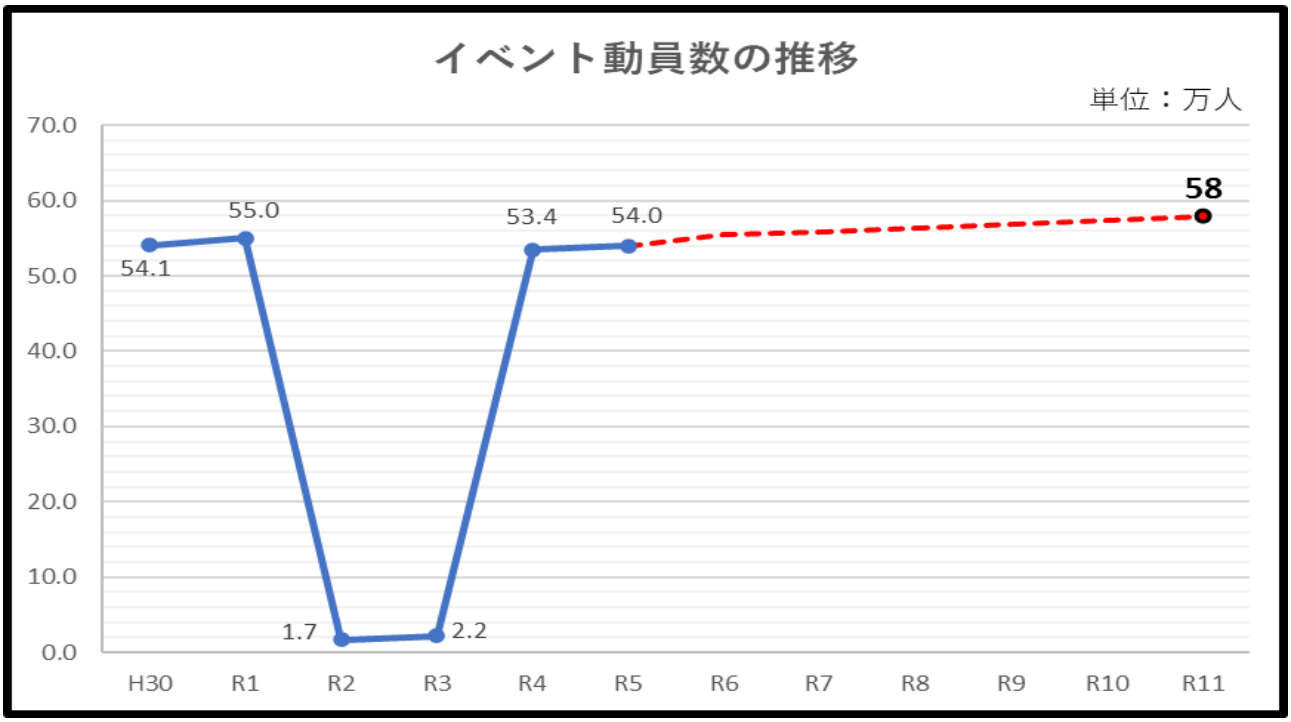
具体的には、観光客による持続的な来訪や消費額の向上によって、観光事業者の意欲向上とサービス改善、市民のおもてなしの向上や観光事業への参画につなげ、より一層の観光の質と顧客満足度が向上する好循環を確立します。

市内には魅力的な観光資源が多くあり、それらを活用し「もう一度苫小牧に行きたい」と思っていただけるよう、本市が一体となり観光客が触れ合う機会を創出することにより関わる全ての方々の充足感を高める取り組みにつなげ、それぞれの指標の向上を図っていきます。

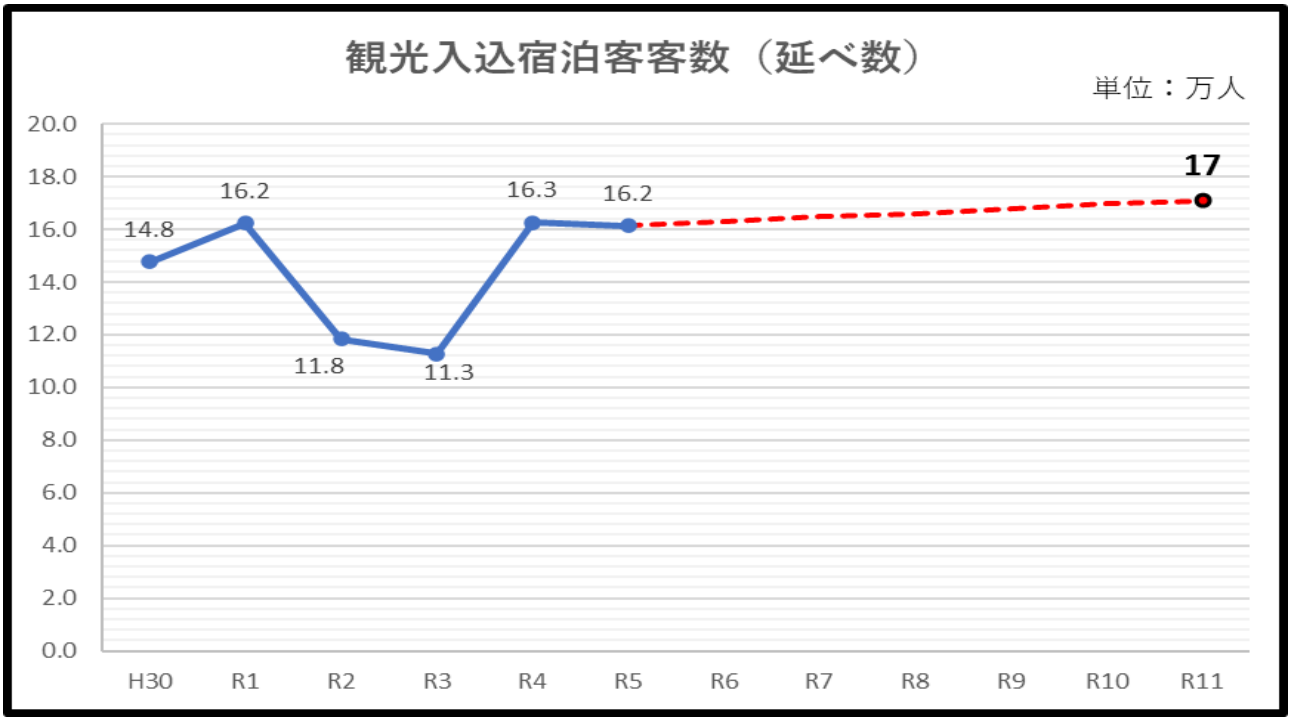
指　標　①	目標（R11）	参　　考
苫小牧市観光入込客数	３１０万人	R５実績　２６３．６万人



指　標　②	目標（R11）	参　　考
各種イベント観光客動員数	５８万人	R５実績　５４万人



指　標　③	目標（R11）	参　　考
苫小牧市観光入込宿泊客数（延べ数）	１７万人	R５実績　１６．２万人



第4章　主要施策

1　構　成

目的	基本方針	主要施策	
交流人口の増加による地域経済の活性化	地域の魅力の有効活用	地域資源の魅力向上	① 豊かな自然環境の情報発信 ② 産業観光の推進 ③ 苫小牧港のおもてなし強化 ④ 食のブランド化 ⑤ インバウンドの拡大
		各種イベントの開催	
		情報発信の強化	
	観光推進体制の強化	MICE誘致の推進	
		サステナブル・ツーリズムの推進	
		広域連携の推進	
	新たな魅力づくり	地域特性を生かした観光の魅力づくり	① スポーツ施設の有効活用 ② 文化施設の有効活用 ③ レジャー施設の有効活用 ④ インフラツーリズムの推進 ⑤ コンテンツ・ツーリズムの推進 ⑥ 観光資源の連動

２　主 要 施 策

（1）地域資源の魅力向上

① 豊かな自然環境の情報発信

本市には、溶岩ドームを持つ世界でも珍しい三重式活火山の「樽前山」や、全国屈指の渡り鳥の中継地として知られている「ウトナイ湖」など様々な自然景観が存在します。

これらの自然景観を観光資源として活用するため様々な媒体を活用し、苫小牧の四季を感じていただけるような自然景観の情報発信に努めます。

【樽前山の溶岩ドーム】

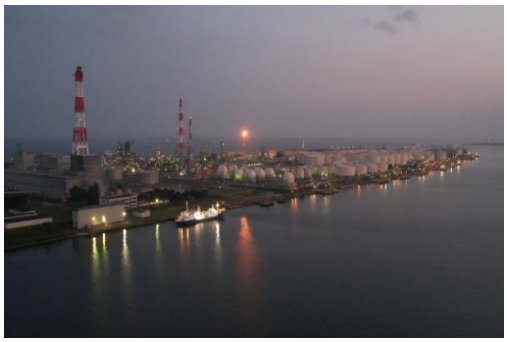
【展望施設から見たウトナイ湖】

② 産業観光の推進

まちの中心にある製紙工場をはじめ、市内東部においては自動車関連産業や石油精製業、再生エネルギー施設など多種多様な産業が集積しています。

また、苫小牧港は国際拠点港湾として、北海道はもとより国内屈指の流通拠点港湾として62年を迎えました。

本市は産業集積都市として発展し、脱炭素についても積極的に取り組みを進めていることから、産業施設を新たな観光資源として民間企業とも連携し、新たな観光需要の発掘に努めます。



【夕焼けと工場夜景】

【冬の工場夜景】

③ 苫小牧港のおもてなし強化

苫小牧は西港と東港にフェリーターミナルがあり、国内7都市とフェリー定期航路で結ばれているほか、国内クルーズ船「飛鳥Ⅱ」や外航クルーズ船「ハンセアティック・ネイチャー」などの寄港もある北海道の海の玄関口となっています。

また、空の玄関口新千歳空港とも近く「フライ&クルーズ」の拠点として多くの観光客が訪れております。

本市の魅力や知名度向上を目指し、フェリー会社と連携し本市公式キャラクターである「とまチョップ」のお出迎えなど、「また苫小牧に訪れたい」と思われるような取り組みを行ってまいります。

また、港の賑わい創出の一環として、港に携わる関係機関と連携し苫小牧港の歴史を学んだり港内クルーズの実施など、実現に向けて取り組んでいきます。

【クルーズ船「飛鳥Ⅱ」】

【クルーズ船「飛鳥Ⅱ」】出航セレモニー

【クルーズ船「ハンセアティック・ネイチャー」入港】

【苫小牧港に寄港中のフェリー3隻】

④ 食のブランド化

本市は自然豊かな海に恵まれ、ホッキ貝は平成12年以来連続漁獲量日本一となっています。そのほかにも、マツカワ鰈や秋鮭など隠れた名産が多数あり市内外からも水産物を求め多くの方が訪れております。

また、2022（令和4）年に「とまこまいカレーラーメン」が、2025（令和7）年には「とまこまいホッキカレー」が文化庁の「100年フード」に認定され、苫小牧観光協会が「Wカレーの街とまこまい宣言」をし、関係機関と連携を図りながら「Wカレーの街とまこまい」を盛り上げています。

さらには、本市に自生するヤチヤナギを使用したクラフトビールの醸造や、苫小牧スパイスを使った新たなご当地グルメの開発等も進んでおり、地域の食の魅力を発信するため、関係機関等と連携し、食のブランド化を推進します。

【苫小牧産ほっき貝】

【ホッキカレー】

【カレーラーメン】

⑤ インバウンドの拡大

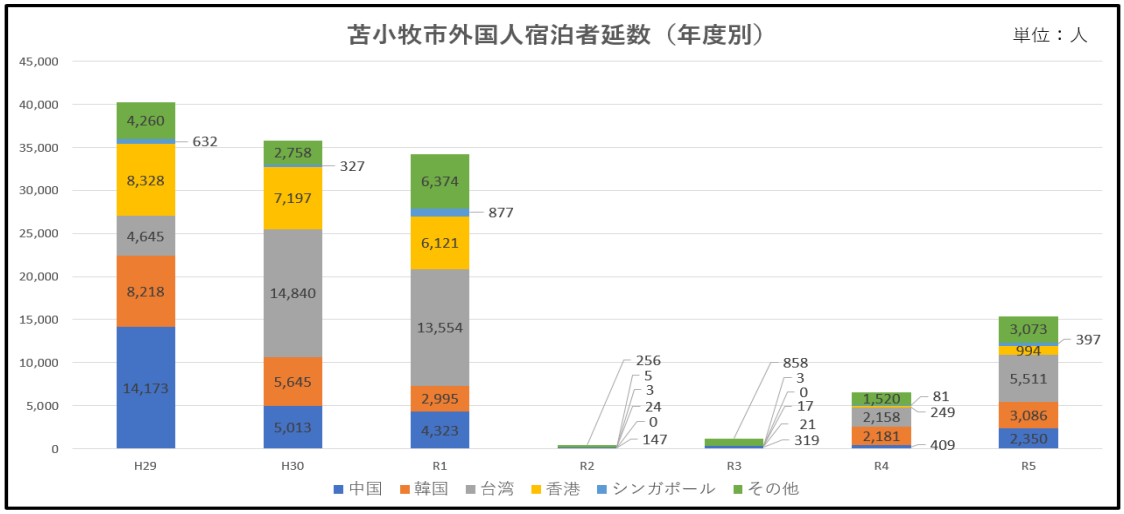
2023（令和5）年度の観光入込客数調査によると本市を訪れる外国人宿泊者延べ数は15,411人となっています。

内訳としましては台湾が5,511人と最も多く全体の35.8%を占めています。次いで韓国の3,086人、中国2,350人と続き上位3地域で71%を占めています。

また、コロナ禍前の令和元年度と比較すると約55%減少しておりますが、2023（令和5）年5月に新型コロナウイルス感染症の行動規制が解除された後は外国人観光客も戻りつつあります。

北海道を訪れる外国人来道者数は韓国、台湾などの中華圏が最も多く、最近ではアメリカからの観光客も増えており、宿泊先としては、札幌、函館など圧倒的な観光資源を有している地域が多くなっています。

外国人観光客誘致については、国や道の観光振興施策との連動等も踏まえた取り組みを展開します。



出典：令和５年度観光入込客数調査、苫小牧市

（2） 各種イベントの開催

本市は1年を通じてさまざまなイベントを開催しているため、SNSや情報誌など様々な媒体を活用し情報発信することで観光客誘致を図ります。また、さらなる交流人口の増加を目指し、既存イベントのブラッシュアップや新たな特色あるイベントを開催していきます。

【とまこまい港まつり（8月上旬）】

苫小牧を代表する夏の一大イベント。ステージイベントや市民おどり、マーチングポートカーニバルを開催。道内最大級の花火は一見の価値あり。

【TOMAKOMAI MIRAI FEST（9月）】

地域特性を生かした音楽フェスを切り口に、苫小牧地域の魅力的なロケーションを生かしたブランディングでその魅力を日本のみならず世界に発信。

【たるまえサンフェスティバル（9月）】

オートリゾート苫小牧アルテンにおいて樽前山をバックにバーベキューを味わいながら苫小牧の秋を堪能できる一大イベント。

【東胆振物産まつり（10月下旬）】

昭和59年から、苫小牧市、白老町、安平町、厚真町、むかわ町の1市4町の特産品が集結し展示、即売と併せて観光PRを行い地域の活性化を図っている。

【とまこまいコスプレフェスタ（11月上旬）】

苫小牧市内各所を舞台にコスプレを楽しむイベント。道内屈指のサブカルチャーイベントとして、道内外からも多数訪れる人気イベント。

【とまこまいスケートまつり（2月上旬）】

苫小牧を代表する冬の一大イベント。ステージイベントや寒い中ドラム缶でジンギスカンを焼いて食べるスケートまつりの名物「しばれ焼き」は市民をはじめ多くの方に親しまれている。

（3）情報発信の強化

市公式LINE、観光振興課「X」などのSNSのほか、市ホームページや特設ホームページなどのインターネットなどを活用するとともに、観光情報誌にも掲載するなど、ターゲットを明確化し本市の魅力やイベント情報を積極的に発信します。

また、外国人情報サイトやアプリを活用し、外国人観光客から本市が旅行先に選ばれるよう、多くの外国人の目に留まるような効果的な情報発信に努めます。

観光振興を図るため、観光協会や観光関連事業者とも連携して情報発信体制の強化を図り、積極的かつ効果的な情報発信に努めます。

【観光振興課公式X】

【COOL JAPAN VIDEOでの苫小牧市の紹介】

（4）MICE[注1] 誘致の推進

本市は新千歳空港及びフェリーターミナルを有するアクセスの良さと、豊富な自然や快適で安定した気象条件から、毎年多くのスポーツ大会や合宿が開催されています。

また、2026年3月には市民文化ホールが新たに誕生することから、スポーツに限らずさまざまな学術・文化大会などの誘致を推進するため、苫小牧市MICE誘致推進協議会や関係団体等と連携しながら、本市への誘客促進を図り、宿泊者数を増やす取り組みを推進します。

【アイスホッケー大会の様子】

【苫小牧市民文化ホール完成イメージ】
（2026年3月開業予定）

注1　MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

（5）サステナブル・ツーリズム[注2]の推進

観光客、観光事業者、地域にとって持続可能かつ発展性のある観光を目指します。

観光が将来にわたって持続的なものとなるよう、観光が影響を及ぼすさまざまな側面においてバランスを取り、経済の活性化や自然環境等の保全、事業者や地元団体など観光を担うさまざまな主体の持続的経営、住民と観光客の良好な関係づくりなど多面的な推進に努めます。

【樽前ガロー（6月）】

【ウトナイ湖（1月）】

（6）広域連携の推進

近隣自治体を広域的な観光圏と捉え、各自治体が持つ観光ポテンシャルを十二分に発揮し、来訪者の増加及び長期滞在を促すため、近隣市町村と連携した観光プランや周遊ルートを作成するなど、地域経済の発展、地域活性化につなげ、各市町村が広域連携のメリットを享受できるよう連携を図ります。

提供：（公財）アイヌ民族文化財団　※イメージです

【ウポポイ　民族共生象徴空間（白老町）】

【登別温泉　地獄谷（登別市）】

注2　サステナブル・ツーリズムとは、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」を意味する。

（7）地域特性を生かした観光の魅力づくり

① スポーツ施設の有効活用

昭和41年に全国初の「スポーツ都市宣言」を行った本市は、アジアリーグアイスホッケーに所属するレッドイーグルス北海道のホームリンク「nepiaアイスアリーナ」をはじめ複数のスケートリンクを有しているほか、「ヤクルト緑ケ丘陸上競技場」「とましんスタジアム」といった各種スポーツ施設が整備されています。

また、市内には民間のゴルフ場が11か所、計297ホールあり、通称「ゴルフ銀座」と呼ばれるほど充実しています。

これらの施設には、大会・合宿などで多くの方が市外から訪れており、今後も本市の優位性を生かした誘致活動を行うことで、スポーツツーリズムを推進します。

②文化施設の有効活用

本市には、国指定史跡に登録されている「静川遺跡」や北海道指定有形文化財に登録されている「アイヌ丸木舟及び推進具」を所蔵している「苫小牧市美術博物館」をはじめ、多くの文化財や文化施設があります。

また、苫小牧では見ることができない植物が植栽されており、一年中楽しむことができる「苫小牧市サンガーデン」や世界に一機しか存在しないロシア（旧ソ連）の宇宙ステーション「ミール」を展示している「苫小牧市科学センター」など、観たり学んだりすることができる施設もあります。

2026年（令和8年）3月には市民文化ホールが新たに誕生し、さらに文化施設の充実が図られることから有効活用に努めます。

③ レジャー施設の有効活用

東西に長い苫小牧市の西部には錦大沼公園があり、カヌー体験や冬にはワカサギ釣りを楽しむことができます。また、全国屈指の五つ星キャンプ場オートリゾート苫小牧アルテンも併設され、多くのキャンパーが訪れるほか、併設しているゆのみの湯は解放感あふれる源泉かけ流しの露天風呂もあり、疲れた体を癒してくれます。

中心部にある苫小牧港を一望できるキラキラ公園には、噴水や船の形をしたアスレチックなどがあり、暑い季節には水遊びをする子どもたちで賑わっています。また、開港60周年を記念に建てられたシンボリックモニュメントは夜間ライトアップされ、停泊している船と一緒に写真を撮ることができる撮影スポットとして人気です。

東部には、カヌー体験や乗馬体験、馬と触れ合えるレジャー施設「ノーザンホースパーク」などがあります。

このようなアウトドア体験やレジャー施設を有効活用していくことで新たな観光の提案を行っていきます。

【nepiaアイスアリーナ】

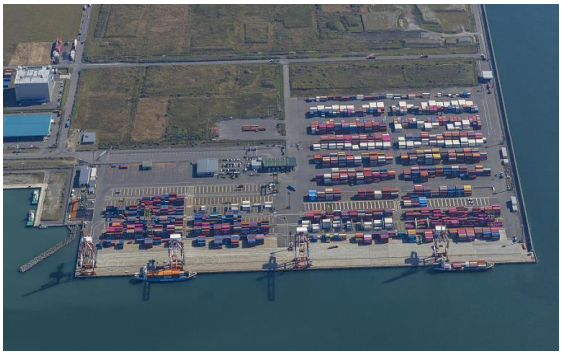
【美術博物館】

【美々川カヌー】

④ インフラツーリズム[注3] の推進

インフラツーリズムにおいては普段なかなか入る機会のない「非日常」の体験を味わえる取り組みとして注目されています。

本市は港を拠点として発展してきたまちであり、インフラ施設が多くあることから、港湾関係者などとも連携しインフラツーリズムの実施に努めていきます。



【インフラ施設】

【消防本部】

⑤ コンテンツ・ツーリズム[注4] の推進

本市にゆかりのあるアニメ作品等のコンテンツを活用し、作品の舞台や作品に関連のある地域を巡り、地域の色や文化等に触れることで、知名度向上や交流人口の増加が図られます。

特設ウェブサイトの開設や観光案内所やイベントでのグッズ販売に加え、市内を巡るスタンプラリーやトークショーなどのイベント開催による本市への誘客、関連スポットを紹介するパンフレットやパネルの設置などを行い、ファンの周遊を促すことにより経済波及効果を図ります。

【本市にゆかりのある漫画「ドッグスレッド」のパネル展示（令和6年度実施）】

© Cygames, Inc.

【本市にゆかりのあるキャラクターが登場するゲーム「ウマ娘 プリティーダービー」のパネル展示（令和6年度実施）】

注3　インフラツーリズムとは、ダムやトンネル、橋、放水路、道路などのインフラ（工事中の状態を含む）を観光の対象とする行動やそのプログラムのこと。

注4　コンテンツ・ツーリズムとは、映画、テレビドラマ、アニメ、ゲーム、音楽、漫画、雑誌、書籍、小説などの情報作品の舞台を訪れる観光のこと。

⑥ 観光資源の連動

観光入込客数が多い「道の駅ウトナイ湖」や「ぷらっとみなと市場」「ノーザンホースパーク」などを観光拠点とし、スポーツ施設やレジャー施設、産業施設など他の観光資源との連動を図り、本市ならではの特色を生かした市内周遊を促します。

【道の駅ウトナイ湖】

【キラキラ公園（モニュメント）】

第5章　推進体制と計画管理

本ビジョンは、ビジット苫小牧観光会議を中心に、市民や事業者、観光協会をはじめとする関係団体等と連携しながら、まちぐるみで推進します。

1　市民の役割

観光客は、様々な人やサービスに接した上で、まちへの印象や思いを持ち帰るため、市民一人ひとりは、本市の魅力を発信する重要な担い手となります。

そのため、観光客を温かく迎える「おもてなし」に努めるとともに、地域の魅力づくりに協力するよう努めます。

2　観光事業者の役割

観光事業者は、地域の魅力を有効に活用し、その事業活動を行うよう努めます。

また、観光振興はまちぐるみで取り組む必要があるため、事業活動の展開に当たっては、観光協会や行政、関連機関等との幅広い連携に努めます。

3　観光協会の役割

観光協会は、観光客の誘致、観光施設の運営などの施策を講ずることにより、観光事業の健全な発展を図り、もって地域経済、文化の振興と市民生活の安定向上に寄与することを目的とし、本ビジョンの積極的な推進に努めます。

4　行政の役割

市役所内部の連携強化を図るため、観光関係部署が連携する組織を立ち上げ、市全体のイベント情報などを共有するとともに役割分担を明確にし、より魅力的なイベント等の取り組みを進めるとともに、観光協会をはじめ、観光事業者や民間事業者等とも連携を深め、観光推進体制を強化します。

また、国や道の観光施策と連携した施策の展開と、東胆振地域ブランド創造協議会等の広域連携の強化に努めます。

資料　ビジット苫小牧観光会議

1　ビジット苫小牧観光会議設置要綱

(目的)
第1条　本市における観光産業のつながりを強化するとともに、観光情報の共有により本市の観光を魅了する観光振興策を検討し、より多くの誘客を図ることを目的として、「ビジット苫小牧観光会議（以下「会議」という。）」を設置する。

(会議の協議・検討事項)
第2条　会議は、次に掲げる事項について協議・検討にあたるものとする。
(1)　観光振興策に関する事項
(2)　観光客の誘致推進に関する事項
(3)　その他1の目的を達成するために必要な事項

(組織)
第3条　会議は、市長の委嘱する委員をもって組織する。
2　会議に委員長1名、副委員長2名以内を置き、委員の互選により選出する。

(委員長及び副委員長)
第4条　委員長は、会議を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。
2　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、委員長が指定する副委員長がその職務を代理する。

(会議の参画)
第5条　会議には、専門の事項を調査・協議するため必要があるときは、学識経験者、関係機関、関係団体等の参画を求めることができる。

(庶務)
第6条　会議の庶務は、苫小牧市産業経済部産業振興室観光振興課にて行う。

附　則
この要綱は、平成22年3月3日から施行する。
附　則
この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

２　ビジット苫小牧観光会議委員構成

令和7年度

	団　体　・　企　業
委　員　長	（一社）苫小牧観光協会
副 委 員 長	苫小牧商工会議所
委　　員 （24名）	苫小牧漁業協同組合
	とまこまい広域農業協同組合
	苫小牧市　産業経済部
	苫小牧市　総合政策部
	（一社）苫小牧青年会議所
	苫小牧港フェリー利用促進連絡会
	苫小牧港管理組合
	北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所
	（一社）北海道中小企業家同友会苫小牧支部
	室蘭地区バス協会（道南バス（株）苫小牧営業所）
	北海道旅客鉄道（株）
	（株）日本旅行北海道　苫小牧支店
	苫小牧ホテル旅館組合
	苫小牧宿泊業支配人会
	（公財）苫小牧市スポーツ協会
	（一社）苫小牧タウンマネジメント
	（一社）苫小牧文化応援隊
	（株）つたい　つたいツーリスト苫小牧営業所
	名鉄観光サービス（株）苫小牧支店
	近畿日本ツーリスト（株）苫小牧営業所
	（株）JTB北海道事業部
	一般公募（3名）

苫小牧市観光振興ビジョン

令和7年6月発行

発 行 ／ 苫小牧市